
王道だね

いしんいしんいしん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

王道だね

【コード】

N5453P

【作者名】

ぶんぶんぶん

【あらすじ】

ある日目覚めたら、見知らぬ豪華な部屋だった。

ある日目覚めたら、見知らぬ豪華な部屋だった。

自分が横たわっていたのは、かなり細かい図案　何か大きな鳥だろうか？　が金銀の糸で刺繍された敷物、同じ図柄のふわふわの掛け布団のベッドだった。ただし天蓋はさすがについていなかったけどね！

目を開いたとたん四方八方から人が出てきて（本当だよ！だってベツドの下部分からも人が出てきたし天井からいきなりローブを着たおじいさんが透けて現れたからね！）巫女様お加減はいかがですか、喉はかわいていらっしやいませんか、巫女様お口をお開けください、お体おふきしましょうかって過剰に面倒を見ようとするんだ。みんな金髪やら銀髪やら青や赤の瞳の美形たちで日本人じゃないって一目でわかる人たちさ。

2

とりあえず、すぐさまその場で一番地位が高そうな、装飾過多なローブを着た男性に説明を求めたよ（ちなみに天井から出てきた人だ。魔法使いらしい）。

そのおじいさんは私に名前を尋ねた後、比較的親切に説明してくれた。

その内容は何となく予想していた通りで、ここは異世界で自分は魔女を倒すために、国王の命令で巫女としてこの国に召喚されたこと、自分はこの世界のだれよりも精霊の助けをもらいやすい性質で、その力を使ってこの国を助けてほしいということ、旅の従者としてえりすぐりのものを選ばせてくれるということ（その従者の候補はこの部屋にいる美形たちらしい）。魔女を倒したあかつきには元の世界に返してくれるということだった。

私が話を聞いて固まったのを見て、彼らは気遣わしげにしながらいろいろ声をかけたり、食事を勧めてくれた。私がそのどれにも首を振ったのを見ると、残念そうにしつつ、サイドテーブルに必ず食べるようにと言い置いてなにかのスープを置き、部屋に一人にしてくれた。

私は何もことばを出すことができず、布団の中にもぐりこんだ。

私は布団の中にもぐりこんだ後、今部屋から出て行った人間たちへの罵声を心の中で叫びまくった（もしかしたら少しは外に漏れてたかもね！）

いやいやいや、ふざけんなよお前ら。お前らのしてること誘拐だぜ、謝ったって普通許されないよ。

まああいつら謝罪は一言もしてないけど。その主犯の国王も顔ださねーし。

なんで無関係な自分が危険な目に会ってまでこの国を助ける必要があるの？

元の世界に返せるってのは100回やって100回成功するくらいの確率なわけ？

というかそもそも自分はその「元の世界」にもともといたところをあいつらに連れ去られたわけで、元の世界に返すって自分にとって本来何の成功報酬でもないんですけど？

それにさっき出てきたやつらすごく御坊っちゃんぽかったんだけど。

動きはのろいし判断力もおせーよ。こつちが説明してほしい何度も言ってるのに何食事の心配してるわけ？

何の苦勞も知りません的な。

よその人間連れ込む前にまずは自分たちで苦勞してみろよ。

しかも、誘拐犯に正直に名前言えるかよ。この世界なんか魔法とかあるっばいし。万が一操られたりしたらどーしてくれんの。今日からは太郎・山田だぞ自分。

それに誘拐犯からの食事も怖くて食べねーよ。まあせいぜい1日くらいしか体持たないけど、これからの方針を決めるまではな。

さあそして落ちつけ自分。今後の行動を考えようぜ。

まず、？彼らに協力して魔女を倒して元の世界に戻る

？協力するふりをしてチャンスを見て逃げる

？ここのやつらひっぱたいて魔女に協力して君臨する

？とりあえず逃げる

？だな。？は絶対に受け付けないし、？はここに1秒たりともいたくないからやつぱり受け付けない。

？は結構ひかれるけど、魔女に協力する積極的なメリットがない。

この世界の常識とかないけど、精霊の助けが得られるんなら、死ぬことはないでしょ。死んだらその時だし。それより、この国のやつらにいいようになんか利用されることが生理的にやだ。

ということ自分で逃げよ。

その水差しの上にふわふわ浮いている薄水色のきみ、もしあの魔法使いのジーさんに聞かれても何も見てない聞いてないって言うってね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5453p/>

王道だね

2010年12月25日14時02分発行